

鹿島技術研究所 本館研究棟

Kajima Technical Research Institute, Research and Administration Building

No. 05-028-2013作成

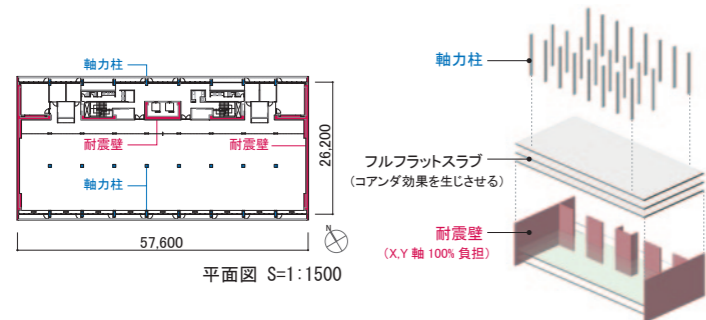
新築
研究所

発注者	鹿島建設株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	KAJIMA DESIGN		E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携
施工	鹿島建設		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他	

要素をそぎ落とすことで実現した環境負荷低減オフィス

敷地は調布市の飛田給駅前再開発地区の隣地。分散していた既存施設の再編の要となる300人の研究者のためのオフィスで、品川通りをはさんで建つ実験棟（2008年竣工）とは地下道で連結され一体で運用される。研究者相互のコミュニケーションを活性化するワークプレイスづくり、ローコストながら快適な執務環境の確保、ZEB（ゼロエネルギービル）実現に向けたリーディングプロジェクトである。

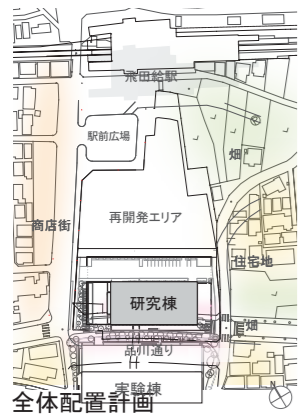
環境性能を高めるために、従来のようにさまざまな環境配慮技術を付加させていくのではなく、すべての建築の構成要素を見直し、贅肉を徹底的にそぎ落とすことで、居住環境、機能性を損ねることなく環境負荷を低減させることを試みた。実現にあたっては様々な事前予測や検証を積み重ね、原理的な環境配慮設計の実現とミニマムな設備機器の採用により、CASBEEでSランク、BEE値8.3（竣工当時日本最高値）を取得している。また竣工後の実測データから62%のCO₂削減を達成した。



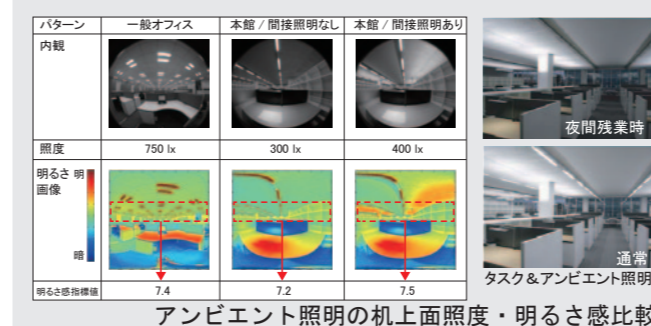
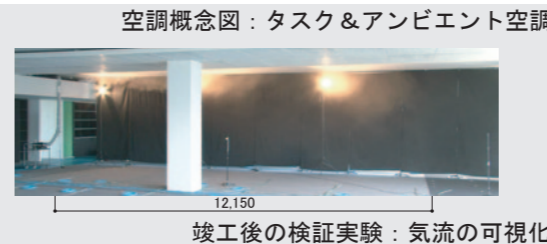
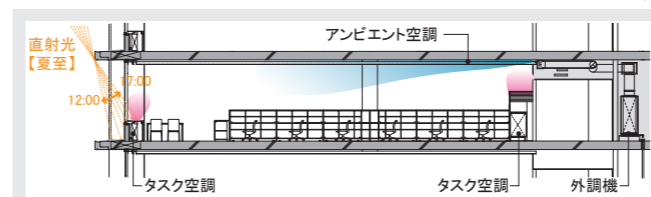
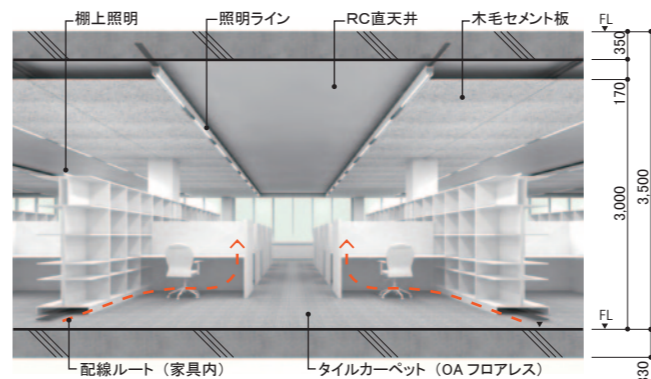
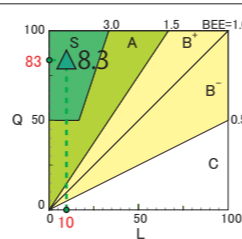
架構計画：梁のないフルフラットスラブを採用



直天井のオフィス：階高3.5mで天井高さ3mの空間を実現



建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地	PAL削減 35 %	Sランク
竣工年	ERR (CASBEE準拠) 39 %	BEE=8.3
敷地面積	LCCO ₂ 削減 32 %	2010年度版 第三者認証
敷地面積		
延床面積		
構造		
階数		



品川通り沿いの桜並木とベンチ

緑のネットワーク：主要な緑化軸：多摩川ー府中産線ー飛田給ー味の素スタジアムー武蔵野の森公園ー野川公園

受賞歴：第5回サステナブル建築賞 国土交通大臣賞、第51回空気調和・衛生工学会賞技術賞建築設備部門、日経ニューオフィス推進賞・環境賞

設計担当者

統括：米田浩二／建築：杉岡正敏・東郷裕之・真鍋寛・横山翔太／FP：田中重良・宮本礼／企画開発：大関和三／構造：吉良滋・井上智晶・中井武／設備：平岡雅哉・弘本真一・上村健・多羅間次郎／家具コーディネーター：福岡正文・鶴見友紀（イリア）／サイン・グラフィック：鈴木一成（イリア）／外構設計：豊田幸夫・岩崎哲治（ランドスケープデザイン）

主要な採用技術（CASBEE準拠）

- Q2. 3. 対応性・更新性（家具内配線ルート、設備バルコニー、オープンプランオフィス、地盤レベルでの設備スペース集約）
- LR1. 1. 建物の熱負荷抑制（開口部ボックス庇形状、屋上緑化）
- LR1. 3. 設備システムの高効率化（高効率空調機器によるタスクアンビエント空調、明るさ感演出型タスクアンビエント照明、太陽光発電）
- LR1. 4. 効率的運用（フォルト検知BEMS、CO₂見える化システム、利用者参加型運用）
- LR2. 2. 非再生性資源の使用量削減（既存躯体の基礎再利用、再生骨材コンクリート、地場産木材・間伐材活用、スケルトンインフィル）
- LR3. 2. 地域環境への配慮（全電化設備、レインガーデン、卓越風シミュレーション、駐輪スペース計画）